

第4回懇談会後にいただいた主な質問・意見等（令和4年10月4日現在）

1 校舎関係

質問・意見	回答
1. I型とL型の2択でデザイン案が上がってきたが、どちらも校庭がせまくなる。他の案はなかったのか？説明は受けたが、他の案も見せてほしい。	校庭の配置から、I型案、L型案の2つになります。校庭を屋上に配置する案も検討致しましたが、防球ネット（15m）をその上に設置する必要があり、日影規制等に抵触してしまうため、案から外しました。
2. 神明中も校庭に低く校舎を建てて、グラウンドは建物内、屋上、可能であれば開閉式ドームとかは無理なのか。	校庭を屋上に配置する案を検討致しましたが、防球ネット（15m）をその上に設置する必要があり、防球ネットが日影規制等に抵触してしまうため、断念しました。屋上の開閉屋根も同様に、日影規制に支障があります。
3. I型で体育館が現在と同じ位置の案はできないのか。	建替計画の中で、I型案の場合には最初に体育館を建設する必要があります。そのため、南東側の配置になります。I型案で体育館を現在の位置に建設するためには、途中で仮設校舎を半解体し、その後また校舎棟を建設する必要があり、仮設校舎を利用する期間が最大5年4ヵ月（64ヵ月）になります。
4. 校舎南側に教室等が配置されているが、防暑対策はどうか？北側教室ではどうか。	北側教室は、日射からの影響を受けないため、暑さ対策には有効ですが、冬は日が入らないため、寒さ対策には不向きです。どの向きでもよし悪しはあります。防暑・防寒対策については、高性能なガラスや高断熱化を施すなど、今後検討致します。I型案では、南に普通教室等、北側に特別教室を配置し、中央に廊下を通す計画としています。
5. 職員室は校庭が眺める位置が安全上も好ましいのか。	職員室や事務室、用務員室は学校を管理する上で重要になります。様々な事故や危険をいち早く察知し対応する必要があり、学校の建築計画では、校庭や昇降口に大人の眼を置くことが求められます。監視カメラなど技術の発達はありますが、やはり大人の多くの眼が子どもたちの日常を見守ることで、安全・安心な学校施設が実現すると考えます。

【校舎関係】（次回以降に回答予定）

- 地域との交流が盛んなので、コミュニティのための多目的会議室があると良い。生徒とは別の出入り口で、会議室に直接入れるような開放玄関があると防犯対策にも安心である。
- L型の昇降口の吹き抜けは2Fに音が響くと思う。その為に2Fを特別教室にしているのであれば、吹き抜けをやめて普通教室を各学年別で配置してほしい。
- オシャレでスマートな校舎ではなく、活動スペースをしっかりと確保した、実用的な設計をして欲しい。想像力を働かせて実際に通う子どもや先生方に寄り添った設計していくことが大切だと考える。

2 体育館

質問	回答
1. 体育館、プールその他を地下化あるいは半地下化してその上に校庭(運動場)を設置できないか。	検討致しましたが、敷地に建てられる位置は、校庭の配置で決まってくる。校庭を屋上に配置する案も検討致しましたが、防球ネット（15m）を屋上に設置する必要があり、日影規制等に抵触してしまうため案から外しました。
2. 神明中の校庭を現状維持するためには、地下に体育館を作れば、空調のメリットと防災のメリットを同時に得られるのではないか。	体育館を地下にすると約11m程度埋める必要があります。地下にした場合、自然光や自然通風が得づらく、停電などあった場合は、使用が難しくなります。また、避難するにも11m（3～4階程度）の階段を登り下りする必要があり、停電等でEVが使えない状態の時は、避難所としての利用は厳しいものとなります。体育館部分を半地下4m程度埋めるのであれば、採光や通風も可能であり、問題なく利用できると考えています。
3. 校庭と体育館が隣同士だと、風の強い日、乾燥した季節などに、体育館のフロアが土埃等でザラザラにならないのか。	砂塵が入らないよう、校庭レベルに窓を設けない、開放を制限するなど、工夫が必要になります。

【体育館関係】（次回以降に回答予定）

- 一般開放で夜間使用している場合、音漏がある。民家に面していない場所にデザインすることができないか。

3 校庭

質問	回答
1. なぜ現在より校庭が狭くなるのか。	資料3参照
2. 校庭を広げるためには、建屋の何をなくせば良いのか。	校舎改築にあたって、杉並区立学校施設整備計画に基づき、必要な諸室を計画しております。 本計画では、「学校施設の目指すべき姿」として、「将来を見据えた教育環境の確保」と「学校施設の標準規模の適正化」を掲げ、施設整備に取り組むとしており、少人数教室等、新たな教育需要に必要なスペースを確保した一方で、デジタル化の進展によるパソコン室の削除など一定のスリム化を併せて行っております。 配置等により各所室の実際の面積が標準面積と比べて前後することはございますが、不要な部屋はないと考えております。
3. 地下に教室などつくって、校庭を広くできないか。	中学校の教室には、建築基準法上、採光が必要になります。 倉庫や更衣室といった室は、地下化することは可能ですが、教室を地下化するのは難しいと考えています。採光のほか、自然換気なども求められ、日常的に利用する教室については地上に設置する方が良いと考えています。ドライエリア（空堀）を設置する場合がありますが、その上は校庭等として使えないため、あまり有効な手段だとは考えていません。

【校庭関係】（次回以降に回答予定）

- 校庭について、砂ぼこりが立たないように防砂林など環境も考えて砂ぼこりが立たない配慮があると良い。（複数意見）
- 現在、サッカー部と共有しながら校庭を使用しています。テニスコートは3面（一面195㎡）取れますが、I型、L型は何面取れるのか。

4 プール関係

質問	回答
1. プール無しにする場合、防火水槽を地下にわざわざ作るより、体育館の下に温水プールを作るほうが、費用はかかっても良いのでないか。	防火水槽は、建物の基礎部分（ピット）を利活用するため、比較的成本がかかりません。
2. 屋外なら必要無いと思う。屋内プールは費用がかかるというなら、一般開放等検討して維持費を確保すれば良いのではないか。	区立の温水プールは、4か所ございます（上井草スポーツセンター、大宮前体育館、高井戸温水プール、杉並第十小学校）。 施設（温水プール）の地域バランスを考慮すると、神明中学校は、大宮前体育館が近くにあることから、温水プールの整備は適さないと考えております。
3. プール設置について、ここ数年は特に猛暑の中、見学の生徒の体調を心配する保護者もいる。そういった意味でも近くの区営や民間の屋内プールの利用も良いのではないか。	現在、改築工事中の杉並第二小学校では、学校にプールがないため（新校舎にはプール整備）、民間施設のプールを借り、民間施設の水泳専門のインストラクターの支援をいただきながら、授業を行っており、民間施設を活用した際の効果や課題を研究しているところです。 他自治体の事例も含め研究し、授業に支障がないよう、教育委員会で対応して参ります。
4. 学校にプールを設置せず学校外のプールを利用すると、往復に時間がかかり教育における貴重な時間が失われる。	学校外のプールを利用する場合、利用する場所によっては、移動にバスを使用することを検討するなど、授業に影響が出ないよう対応してまいります。
5. プールの設置は屋根付き、あるいは屋内が望ましい。理由は、近年の猛暑により、プールを利用できないこと、屋外だと野鳥の水浴び場になってしまい、衛生面から利用できなくなることがあると聞いたことがある。	改築校でプールを整備する場合は、屋外で造ることを基本としておりますが、最近では、小中一貫校である高円寺学園で一つのプールを小中学校で共有することから、授業時間を確保するため、プールに屋根を整備した例がございます。今回の計画でプールを整備する場合は、一部に庇を付け、休憩や退避場所として利用できるように配慮することを考えています。 屋外プールに野鳥が来ることがあるとのことですが、プール使用開始前には全水又キによる全面清掃を行います。また、使用期間中はろ過機によるプール水の循環ろ過機及び水質検査で大腸菌、一般細菌等の券さにより、衛生的に使用できるよう管理しております。さらに、野鳥が飛来みられた場合は、こまめな清掃で対応しております。

5 防災関係

	質問	回答
1.	感染症対策について感染者や感染の疑いがある方と一般避難者が接触しないように設計上、動線を分けること。	L型案では、1階の開放エリアから近い、PTA支援室、生徒更衣室、学び、進路、会議などの室は、感染者対応室のほか、避難弱者（車椅子利用の方、乳幼児と一緒にいる方）などに対し、落ち着いた場所を提供可能と考えています。 I型案では、少し離れてしまいますが、1階の学び、会議室、3階のPTA支援での対応が可能と考えています。
2.	避難所として最初に受け入れる体育館は1階で近くに運営本部拠点、トイレ、防災倉庫、無線設備を整備すること。	プール無し案では、1階に配置可能ですが、プール案では体育館は半地下になります。 どちらの案も、体育館の近傍に、運営本部となる開放会議室、トイレ、防災倉庫を設置しています。 L案では、開放会議室は1階になります。 I案では、開放会議室は3階になります。 無線設備については、関係課と調整を図ってまいります。
3.	運営本部については常時、町内会や震災救援所運営連絡会などで会議ができるようにすること。	開放会議室を設置し、地域の方の会議や震災救援所運営連絡会などで会議ができるようにいたします。
4.	ごみステーションはごみ収集車が入り可能な場所で調理場所などの衛生面に注意を払わなければならない場所、直射日光が当たりにくく、屋根のある場所を確保すること。	I型案では敷地西側、L型案では現状と同じ敷地北側になります。
5.	ペット同行避難について収容所は屋根の設置もしくはピロティや駐輪場を活用すること。	ペットはゲージ等に入れ、一定程度の間隔を保ち、屋根がある場所に収容することになることから、ご指摘のように設計段階から収容場所を想定した調整が必要だと認識しており、今後検討してまいります。
6.	プールを屋上に設置した場合、震災救援所としての機能の内、屋上プール水の活用（トイレ、洗浄、消火）する為の設備（給水配管等）はありますか。屋上の場合、利用しにくいのではないかと。	今後、詳細の検討は致しますが、マンホールトイレについては、プールが上部にあることで、ポンプアップせず、自然流下で水を利用が可能です。 消火については、道路面等に採水口を設置し、消防が消火用水として利用できるようにします。（配置案が決まりましたら、消防署とも協議を進めさせていただきます。）
7.	開放会議室は、外部者の利用も多いので出入りがしやすい1階位置が好ましい。	I型案では、スペースの関係上、3階になります。防災倉庫等は1階または体育館と同じフロアが望ましいと考えています。 L型案は、1階に設置し、開放入口からも近く、体育館にも近い位置に配置しています。
8.	防災倉庫は、災害時の用品の備蓄であり、避難者が滞在する体育館の端の方が物資の移動に便利。外部からの搬入、搬出が見込まれるので車両の出入口が端に必要。	I型案については、校庭から出し入れが可能な1階。 搬入についても校庭側から車両を入れ、防災倉庫に搬入します。 L型案については、体育館と同じフロアに地下1階に用意します。 開放入口横に駐車場を用意し、目の前にEV・階段を用意し地下に搬入可能とします。
9.	防災倉庫は、災害時学校建屋の損傷により開放が出来ない可能性がある。建屋外部が良いし、教育施設とは別の管理が便利ではないかと。	今回の改築にあたり、防災倉庫を整備する場合、目的に応じ配置する場所を分けております。 ①建物1階部分に80㎡程度（換気機能付）の倉庫 ②屋外部分に15㎡程度の倉庫 ①については、避難者の滞在場所が、体育館等、1階部分が主になることから、物品の移動が容易に行える場所であること、食料を保管しておくために屋外ほど、室温が上がりにくいこと、設備面の条件として、換気機能を備え付けることなどが、理由となっております。また、屋外に設ける場合、校庭が狭くなることもあるため、建物内に整備する計画です。 ②については、懐中電灯等、初動期に必要な物品を保管すること、建物の安全点検が完了するまでに必要な物品を保管すること、以上の理由から屋外倉庫としてまいります。
10.	大地震を想定して避難経路が簡単であり、すぐに屋外に出られるように、廊下の短い設計が良いと思う。	どちらの案も、避難がわかりやすく、短時間での避難が可能な計画とします。 I型案の場合は、普通教室が南側のため、南側の歩道状空地を通過しての校庭への避難となります。 L型案の場合は、普通教室から、2か所の階段を使い、直接校庭への避難となります。

11.	災害時の避難(宿泊)場所としての利用が十分考慮された設計になっているか？(避難場所と防災倉庫との位置関係等)	具体的な使い方に関しては、震災救援所運営連絡会と学校と調整の上で決定していく形となりますので、あくまで想定となることをご承知おきください。 一時避難場所として体育館を想定しています。I型案は、1階に、L型案は体育館と同じ地下に防災倉庫の設置を計画しております。また、L型案は、開放エリアの近くにPTA支援、生徒更衣、学び、進路相談、会議を設置し、感染者対応や、高齢者や車いす利用者、乳幼児を持つ方への個別対応も可能な計画です。
-----	--	--

【防災関係】(次回以降に回答予定)

- 空調は停電中であっても2教室分は稼働できること。また、各教室、体育館、校庭にAC非常用電源を整備すること。
- 上下水道につながず利用し続けられる「完全循環型水栓トイレシステム」サスティナブルトイレを常設すること。
- 外部道路と学校敷地への出入口は、一度に大量の人の出入りができ、トラック、救急車などの車両通過のため大型が好ましい。
- 災害時、震災救援所運営連絡会の本部が教室内に設置されます。これも体育館の傍の教室が好ましい。(WIFI、公衆電話回線、職員室の無線設備、保健室使用)

6 改築期間中の対応について

	質問	回答
1.	既存の体育館から新しい体育館へ、利用が途切れることのないように運動スペースの確保をお願いしたい。	I型案は、既存体育館と新体育館を途切れることなく使えることがメリットです。L型案は、仮設の体育館とはなりますが、整備する予定です。 これまでの改築では工事期間中の代替の校庭については、近隣の学校にご協力いただいております。いずれの配置になっても工事期間中に校庭は使えませんが、教育委員会でできる限り対応し、生徒たちに支障のないように対応してまいります。

【改築期間中の対応について】(次回以降に回答予定)

- 例年通りの授業が受けられるようにしていただきたい。工事で授業に集中できない、実験や実技など十分な経験が出来ないなどのないようお願いしたい。
- 改築中でも給食は通常どおり出していただきたい。
- 運動や部活動が十分に出来なくなるのでは、また、体育祭などの行事が出来るのかどうか。特に部活動は子供にとって中学校生活の大きな部分を占める活動で、運動部の場所や時間の確保を最優先で計画を立ててほしい(同意見複数)。
- 屋上も柵などの対策をして改良し、運動スペースに利用してもいいのではないかと。
- 桃二小でも建て替えを経験している子どもたちが神明中に入学することで、小中続けて不便な生活を強いられることになり、非常に残念である。小学校でも体育やプールの授業が減ったり、休み時間に体を動かさなかったり、影響は大きかった。育ち盛りの子どもの運動量が落ちないように特に配慮してほしい。
- 改築中の仮校舎はエアコン、防音サッシ、空気清浄機を入れてほしい。特に3年生が受験勉強に支障が出ないように配慮していただきたい。
- 改築中も校内の設備やタブレット端末、ICT機器などを揃え、授業はしっかりと行ってほしい。

7 意見聴取・説明会・懇談会の進め方等

	質問	回答
1.	自由に意見を聞くと議論が散漫になるので、項目を絞って、議論を進めてほしい。	第4回については、初めて配置案を出した回でもあり、自由に意見を言ってもらいました。今後は、その回で議論していただきたい内容を明確にお伝えするなど、わかりやすく議論が進められるよう努めて参ります。
2.	学校関係者(先生方生徒他)の教室特別教室その他施設の配置使い勝手プールが必要か等の意見交換も必要ではないでしょうか。	校長・副校長を通じて、先生方にも意見を伺ってまいります。
3.	今後の生徒確保のためにも、改築に関わる学年の保護者、子供たち対象に早めの説明が重要だと考える。区のホームページを見る方もなかなかいらっしやらないので、定期的な説明会などを開催してほしい。	改築ニュースを適宜発行し、情報提供に努めてまいります。また説明会については、学校と調整し、開催方法について検討してまいります。
4.	周辺住民の納得が得られるような説明会と、工事進行中も工事業者との定期的な交流も必要。不信感を起こさせない関係が円滑に建設を進める条件だと思ふ。	配置案のまとまった頃(現在、令和4年12月を想定)に、近隣及び保護者を対象とした説明会を別々に開催する予定です。 また、改築ニュースを適宜発行し、事前の情報提供に努めてまいります。 説明会については、工事の施工業者が決まった際は、着工前に工事説明会を行うとともに、工事中の窓口を分かりやすくいたします。

8 その他

	質問	回答
1.	現在南面にある井戸、池、桜の木、自転車置き場はどうなるのか。	<p>井戸は設置いたします。</p> <p>池については、学校や主に管理をしている学校支援本部と検討してまいりますが、現在の配置を考慮すると、校庭が狭くなることが想定されるため、設置は困難と考えております。</p> <p>駐輪場については、敷地が狭く、校舎、校庭、緑地などほか必要な施設を配置し、その中で最大限確保したいと考えてまいります。</p> <p>敷地南側の樹木については、要綱上必要な歩道状空地にあたるため、残すことは困難です。また、樹木の移植は種類や樹齢によっても異なりますが、高齢の樹木になるほど難しいことから、移植は行わず、伐採した樹木の活用については、関係者と協議してまいります。なお、工事エリアに抵触しない樹木があった場合は、残置を検討いたします。</p> <p>校舎改築後は、緑化の基準に基づき、新たな樹木を植える予定です。新校舎の歩みとともに、新たに植えた樹木や子どもたちの成長を見守っていただきますようお願い申し上げます。</p>

【その他】（次回以降に回答予定）

- 屋上が活用されていないとの話も聞くので、屋上緑化だけでなく、太陽光発電設備やSDGsを考慮した建築がよいと思う。
- 校庭競技観覧用として教室の外部に通しのバルコニーは付けられないか。
- バルコニーは活用されていないようなので、日差しを和らげる庇を設置したらよいのではないか。
- 「旧校舎」を懐かしむスペースがあるといい。
- 美術クラブが描いた壁画は残して欲しい。
- 境界についてどのような設えを考えているのか。
- 必要電力量増加に対応可能な電力キャパシティが確保できると良い。
- 毎日重い荷物を持たなくていいように個人ロッカーのようなものがあると良い。